

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	理 科
-----	-----

発行者	総合的な所見
東 書	<p>(ア) 第1の観点 基礎・基本の定着</p> <p>①単元に関わる写真を左ページ全体に掲示し、右ページに単元で学んでいく事柄について明示している。</p> <p>②単元の終わりに「つながる科学」、「章末」、「世界につながる科学」、「学習内容の整理」、「確かめと応用」が設定されている。大切な用語の復習から応用力の習得までサポートしている。</p> <p>③観察・実験の手順に「ステップ」として見出しがつけられ、観察・実験の目的や意義、安全面などにマークがつけられている。</p> <p>(イ) 第2の観点 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>①学習内容に関して、発展的な内容を、日常生活や身近な自然現象との関連を図った読み物資料「From Japan 世界につながる科学」「つながる科学」を掲載している。</p> <p>②各学年の巻頭に探究の過程を示している。各節毎に課題が設定しており、ページ下部の各段階タブに色を付け、その学習が探究の過程のどの段階かを示している。</p> <p>(ウ) 第3の観点 内容の構成・配列・分量</p> <p>①指導時期にあわせて、1分野・2分野を配列している。</p> <p>②単元末問題が豊富に準備されており、基本問題と活用問題が設定されている。身近な生活に関係した発展的な内容や科学史を漫画で紹介しており、興味・関心を高める内容になっている。</p> <p>(エ) 第4の観点 内容の表現・表記</p> <p>①巻頭に目次と関連させて2次元コードやURLを示し、インターネットを活用する場面を掲示している。安全のための注意や学習の過程を示すマークが一覧で示されている。</p> <p>(オ) 第5の観点 言語活動の充実</p> <p>①「実験から」により、結果からわかることを図や表などを使用して、分析・解釈する視点を示している。</p> <p>②巻頭の「考えが異なっていたら、考えを言葉にして議論しよう」「伝える言葉にしよう 発表のしかた」で話し合い活動の仕方が例示されており、巻末に「学びを広げよう 自由研究」で科学研究の取り組み方を示している。</p>

(ア) 第1の観点 基礎・基本の定着

- ①単元に関わる写真を見開きで掲載し、単元の学習において明らかにしたい疑問を示している。
- ②単元の終わりに「探究活動」、「まとめ」、「単元末問題」、「読解力問題」、「つながる」が設定されている。基礎的な知識の復習から活用まで幅広くおさえている。
- ③観察・実験では、タイトル、目的、着目点を分けて示し、基本操作の頁には、図や写真、イラストを用いて基本操作の手順がまとめてある。

(イ) 第2の観点 主体的に学習に取り組む工夫

- ①学習内容と日常生活や社会との関連を図った読み物資料「暮らしの中の理科」や、職業の具体を取り上げた「プロフェッショナル」などを掲載している。
- ②第1学年の巻末に探究の過程を示している。大単元の最後の「課題を見つけて探究しよう」で探究の過程に沿った学習を示している。

(ウ) 第3の観点 内容の構成・配列・分量

- ①指導時期にあわせて、1分野・2分野を配列している。
- ②単元末問題が豊富に準備されている。基本問題と、各單元ごとの読解問題が設定されている。学習内容に関する補充説明が、コラム形式で紹介されている。

(エ) 第4の観点 内容の表現・表記

- ①巻頭の「理科の学習の進め方」に、教科書の構成や、使用しているマークの一覧で示している。

(オ) 第5の観点 言語活動の充実

- ①「結果の例」、「結果からわかること」により、実験の様子やその結果の文章表記の仕方を例示して、分析・解釈する視点を示している。
- ②巻頭の「課題をつかもう」、「観察や実験をしよう」、「結果をもとに考えよう」で話し合い活動の仕方が例示されており、巻末に「自由研究にチャレンジしよう！」で科学研究の取り組み方を示している。

学 図	<p>(ア) 第1の観点 基礎・基本の定着</p> <p>①単元に関わる写真を見開きで掲載し、単元の学習後に答えられるようになるべき問いを「学びの足あと」として示している。</p> <p>②単元の終わりに「学び続ける理科マスター！」と「学びを日常に活かしたら」という2種類のまとめが設定されており、単元の内容の深い理解と活用力を習得することをサポートしている。</p> <p>③基本操作や基本技能について「基本操作」と表示された囲みの中で、手順や注意事項が記載されている。</p> <p>(イ) 第2の観点 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>①探究活動の進め方を、「課題→方法→結果→探究後のまとめ」というように段階的に紹介している。学習内容の理解を深めるための話題を載せた「サイエンスカフェ」を掲載している。</p> <p>②各学年の巻頭に探究の過程を示している。各章ごとに2つ程度の探究活動があり、ページの左側に探究の過程を示してある。</p> <p>(ウ) 第3の観点 内容の構成・配列・分量</p> <p>①指導時期にあわせて、1分野・2分野を配列している。</p> <p>②単元章末問題が豊富に準備されている。「学びを日常にいかしたら」では、学習内容の活用問題が生徒の会話形式で掲示されている。補充説明がコラム形式で紹介されている。</p> <p>(エ) 第4の観点 内容の表現・表記</p> <p>①巻頭の「教科書の使い方」に、教科書の構成や、使用しているマーク、二次元コードの使い方が示されている。</p> <p>(オ) 第5の観点 言語活動の充実</p> <p>①実験結果を実験レポート例やイラストを使用して、分析・解釈する視点を示している。</p> <p>②巻頭の「探究の進め方」により、話し合い活動の仕方が例示されており、「この自由研究がスゴイ！」で科学研究の取り組み方を示している。</p>
-----	---

教 出	<p>(ア) 第1の観点 基礎・基本の定着</p> <p>①単元に関わる写真を数種類、見開きで掲載し、これからの学習において学習していく事柄と流れを示している。</p> <p>②単元の終わりに「重点と重要用語の整理」と「基本問題」を設定している。基礎的な知識の定着→問題を実際に解く練習という流れになっている。</p> <p>③観察や実験では、目的・準備・方法・結果と項目で示され、使用する器具や装置の操作などは「基礎技能」として本文とは区別されている。</p> <p>(イ) 第2の観点 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>①学習内容に関して、日常生活とのつながりや社会と関連している科学技術の話題などの読み物「ハローサイエンス」を掲載している。</p> <p>②各学年の巻頭に探究の過程を示している。「疑問から探究してみよう」を各単元に設定し、探究の進め方に沿った学習活動を示している。</p> <p>(ウ) 第3の観点 内容の構成・配列・分量</p> <p>①指導時期にあわせて、1分野・2分野を配列している。</p> <p>②単元章末問題が豊富に準備されている。要点と重要用語の整理を2ページ、基本問題を2ページずつ掲載している。身近な生活と関連付けたコラムが多くある。</p> <p>(エ) 第4の観点 内容の表現・表記</p> <p>①巻頭に安全のための注意や学習の過程を示すマーク、URLや二次元コードが一覧で示している。</p> <p>(オ) 第5の観点 言語活動の充実</p> <p>①実験結果の様子を写真に載せ、モデルやイラストを使用して、分析・解釈する視点を示している。</p> <p>②巻頭の「探究の進め方」により、話し合い活動の仕方が例示されており、巻頭にあるレポートの書き方や巻末の「自由研究」で科学研究の取り組み方を示している。</p>
-----	---

啓林館	<p>(ア) 第1の観点 基礎・基本の定着</p> <p>①単元に関わる写真を見開きで掲載し、単元の学習において明らかにしたい疑問と学習の見通しを示している。</p> <p>②単元の終わりに「学習のまとめ」、「力だめし」、「みんなで探Qクラブ」が設定されている。基礎的な知識の復習から思考力を問う問題まで幅広くおさえている。</p> <p>③観察や実験では、目的・方法・結果・考察を区別して表記している。基本的な実験操作については、「実験のスキル」を設け、区別してある。</p> <p>(イ) 第2の観点 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>①幅広い視点で、日常生活に関連する科学コラム、「部活ラボ」、「お料理ラボ」、「お仕事ラボ」、「防災減災ラボ」、「深めるラボ」などを掲載している。</p> <p>②各学年の巻頭及び巻末に探究の過程を示している。各単元に「探Q実験」を設定し、探究の過程に沿った学習活動が行えるようになっている。</p> <p>(ウ) 第3の観点 内容の構成・配列・分量</p> <p>①2分野→1分野の順で配列している。</p> <p>②単元末問題は、学習のまとめ2ページ、力だめし4ページと多く準備している。学習の補足や、発展的な内容を、コラム形式で紹介している。</p> <p>(エ) 第4の観点 内容の表現・表記</p> <p>①巻頭の「この教科書の使い方」「もくじ」に、教科書の構成や、安全のための注意、学習の過程を示すマーク、URLや二次元コードが一覧で示されている。</p> <p>(オ) 第5の観点 言語活動の充実</p> <p>①実験結果の様子を写真に載せ、モデルを使用して自分の考えを書かせたり、発表させたりする活動を通して、分析・解釈する視点を示している。</p> <p>②巻末の「探究の流れと探究の振り返り」により、話し合い活動の仕方が例示されており、巻末の「サイエンス資料」により科学研究の取り組み方を示している。</p>
-----	--